

家畜衛生広報

ながの

長野家畜保健衛生所
北信家畜畜産物衛生指導協会
長野市安茂里米村1993
026-226-0923

転ばぬ先の暑熱対策！

夏場の暑熱は家畜の生産性に大きな影響を与えるだけでなく、暑さによる体力の消耗などにより、秋口の涼しくなる時期に大きな病気の原因となることがあります。

家畜が快適に夏を越せるよう、今年も暑熱対策について考えましょう。



暑熱の影響

牛	乳用牛	採食量や反芻行動の減少、乳量の低下、乳房炎の増加など。
	繁殖雌牛	増体成績・受胎率の低下など。 受精後7日以内、特に4日間の平均湿度が暑熱期の受胎率に影響を与えるようです。
	肥育牛	採食量の低下、増体量および体内のビタミンA濃度の低下。 ビタミンA欠乏が進行すると採食量低下も加わり、増体量が低下してしまいます。
豚	繁殖雌	発情の微弱・遅延、排卵数の減少、死産および生時体重の減少など。
	種雄豚	交尾欲の減退、造精機能の低下、精液性状不良による受胎率低下など。
	肥育豚	発育停滞、食欲減退など。
鶏	採卵鶏	産卵率や卵重の低下など。

暑 熱 対 策

牛・豚・鶏いずれの畜種に対しても基本は同じですが、詳しくは以下を参照してください。

舎飼家畜

(1) 飼料給与に注意する

牛は採食するとルーメン発酵による熱が発生します。

特に、質の劣る粗飼料はルーメン内での発酵熱が高く、牛の暑熱ストレスを増やしてしまうため、飼料の質に注意しましょう。

一日の飼料給与量の割合を昼間は少なく、夜間に多くすると採食量低下を防げます。

豚では、消化性のよい飼料の給与や油脂添加によりエネルギー摂取を促進すると良いでしょう。

新鮮な水を十分に与えましょう。

(2) 密飼を避ける

(3) 換気扇、送風機、ポリダクトによる送風・通風促進により体感温度を下げる

(4) 屋根、畜舎内への散水を行う

(5) 樹木や遮蔽物を設置する

(6) 屋根材や壁材に断熱性の高い材質を利用する



放牧家畜

(1) 日中放牧するときは、庇陰林のある牧区を使用するか涼しい時間帯だけにする

(2) 新鮮な水を十分飲水できるようにする

(3) 併給飼料、主要なミネラルを与え健康な状態を維持する

以上が一般的な対策ですが、いくつかの方法を組み合わせると、より高い効果が得られます。

家畜の行動を良く観察し、異常家畜の早期発見・早期治療に努めて生産性の低下を防止しましょう。